

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 大学院自然科学研究科

組織目標		達成状況(成果)
(下記3項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。)		
教 育	○大学院教育改革 コース制の導入試行等 ○学部と大学院のカリキュラム整合性検討 ○国際交流推進	○大学院教育改革 先進基礎科学特別コースの平成23年度からの本格的導入に向けて、平成22年10月より理学部、工学部、農学部の4年生を対象としてコース導入の試行を実施した。専門基礎科目のほかに、課題調査インターンシップを実施した。インターンシップには8名の学生が参加し、参加学生および受け入れ先の3企業においてきわめて好評であった。 ○学部と大学院のカリキュラム整合性検討 平成24年度からの教育研究組織の見直し(改組)について検討し、学部教育と大学院教育の連携を踏まえた基盤教育研究組織の整備と異分野融合の両立を目指した改組案を策定した。 ○国際交流推進 国際交流協定の締結や留学生の受け入れを推進した。
	達成度:	4 ③ 2 1
研 究	○戦略的研究プロジェクト・重点研究プロジェクトの推進 ○産学官連携の推進 ○競争的資金・外部資金の獲得拡大 ○若手研究者・女性研究者の育成	○戦略的研究プロジェクト・重点研究プロジェクトの推進 1. 本研究科の教員が中心となってWPIIに応募した。また、この応募内容に基づいて、エネルギー環境新素材拠点を構築した。 2. 学内COEによる「グリーン・イノベーションに関する課題研究」を実施した。 ○産学官連携の推進、競争的資金・外部資金の獲得拡大 概算要求プロジェクト2件(エネルギー関連、レスキューシステム関連)を構築し、学長に提案した。また、科研費採択数増加のための取り組み(採択課題申請書の公開など)を実施した。 ○若手研究者・女性研究者の育成 第1期WTT教員の受け入れと第2期の募集を推進した。
	達成度:	④ 3 2 1
社 会 貢 献	○高大連携の推進 ○産学官連携による地域産業の活性化支援 ○中高生の科学技術啓発 ○地域社会への情報発信促進	○高大連携の推進 7月に高校生・大学院生による研究紹介と交流の会を実施するとともに、高校教員と情報交換のための懇談会を開いた。 ○中高生の科学技術啓発 「科学大好き岡山クラブ」などの活動を通して、小・中・高生の科学研究に対する意欲や能力を育てることに貢献した。 ○産学官連携による地域産業の活性化支援・地域社会への情報発信促進 産学共同研究の実施、研究成果のマスコミ発表などを活発に実施した。さらに、研究科としての組織的な活動が望まれる。
	達成度:	4 ③ 2 1
評 価 の 客 観 的 指 標 ・ 定 義	事 項	定 義 (抜 粋)
	学部入試倍率	評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法:前期入試,後期入試,AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員(小数点3位を四捨五入)」の数値
	大学院充足率	評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法:4月入学者の「入学定員÷入学者数(小数点3位を四捨五入)」の数値。
	留年・休学・退学者数	評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留年:正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者
	就職率	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
	共同研究件数, 受託研究件数, 受入金額	共同研究申請率, 科研費採択率, 採択金額 評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。 教育面では、先進基礎科学特別コース導入に向けた準備と試行を実施したが、構成員の協力と理解により、平成23年度からの本格的導入が可能な状況に至っている。また、平成24年度からの教育研究組織の見直し(改組)について検討し、「深化」と「融合」の両立を理念として改組案を策定した。農学系専攻の環境学研究科への移行を伴う大規模な改革であるが、これを機会に、教育研究基盤組織の効率化と大学院入学定員の適正化を実現したい。 研究面では、物理、化学、生物系教員を中心としたWPIへの応募とそれに基づいたエネルギー環境新素材拠点の構築が特筆すべき成果である。次年度も、研究科や専攻の枠を越えた教員の連携と協調による優れた研究拠点の構築を目指したい。また、若手研究者や女性研究者育成のためのTT制導入など、人事システムの改善が必要である。 社会貢献では、引き続き、高大連携や小中高生の科学啓発に努めるとともに、技術分野における啓発や組織的な情報発信が求められる。		

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。